

平成26年度第1回岡山県環境審議会大気部会 議事概要

1 日時

平成26年7月30日(水) 15:00~16:00

2 場所

ピュアリティまきび 2階 エメラルド
(所在地:岡山市北区下石井2-6-41)

3 出席者

- ・ 委員 7名
- ・ 事務局(環境管理課) 5名

4 議事概要

(1) 岡山県の環境大気概況

平成25年度の環境大気の測定結果について事務局から説明した。

(2) 岡山県における大気汚染物質の測定体制について

微小粒子状物質(PM2.5)の測定体制を検討するにあたり、平成24~25年度に行った基礎的研究データの取りまとめ結果を事務局から説明し、今後の測定体制について委員に意見を伺った。

審議の結果、「県北部の適切な地点に必要な測定局を追加設置すること」という提言がなされた。

5 質疑等(○:委員、●:事務局)

(1) 岡山県の環境大気概況

- 大気汚染物質は年間を通して何回か測定しているのだと思うが、達成率が0%の項目はいつも達成していないのか。
- 24時間の連続測定を365日実施している。
評価方法には、年平均値や日平均値の年間98%値などがあり、日ごとに見れば低い日もあるが、年間を通した評価をすると非達成という結果になる。
- 達成率0%の項目は、平成25年度に限った結果か、それとも、0%の状況が継続しているのか。
- 継続している。
- 大気汚染物質の削減要請も継続して行っているのか。
- 継続して行っている。
- PM2.5については、岡山県の特徴はあるのか。
- 今後の研究で明らかになる部分もあるが、岡山県は中国地方や九州地方の各県に比べ高い傾向があるので、越境汚染のほか、県内からの排出や、大気汚染物質が滞留しやすい地形であることも影響していると考えられる。

- 光化学オキシダントとPM_{2.5}の測定局数が異なるが、地域性等の分析はしているのか。
- 両者とも2次生成によっても発生する物質であるため、国や他の自治体の研究では、その挙動も似ている部分があると言われているが、まだ不明な点も多く、今後の研究課題となっている。

- PM_{2.5}の測定結果を見ると、まれにマイナスの値が表示されていることがあるが、どういう意味なのか。
- PM_{2.5}は非常に低い値を測定しているため、公定法による測定であっても、±10マイクログラム/m³程度の誤差は出てしまうため、マイナスの表示となることがある。
ただし、マイナス20程度の表示になると、機械の不具合が考えられる。

- PM_{2.5}に関する今後の対応として、国への働きかけを行うとしているが、県としての対応はないのか。
- 県としては、この度報告する県独自の研究や、原因物質となる二酸化硫黄、二酸化窒素の燃料転換等による更なる削減をあらゆる機会に指導している。

(2) 岡山県における大気汚染物質の測定体制について

- 資料②、③に関して、一つのプロットは一日の平均か。また、測定期間は。
- 日平均値である。期間は、1～2週間を四季ごとに行ったものである。

- 津山の測定地点は、測定局からどの程度離れているのか。
- 1キロメートル程度である。

- 資料②の図2で、直線の傾きがかなり違うように思うが、どういった理由か。
- 地域によって、SPM中のPM_{2.5}の割合が異なるため、その違いが傾きに表れているものである。

- 先ほど、測定機には誤差が出るという説明があったが、この日平均でいうとどれくらいの誤差があるのか。
- 1時間値で見ると、±10マイクログラム/m³程度の誤差が出るが、日平均だと「ほとんど誤差が出ない」とされているのみで、具体的に何マイクログラム、何パーセント違うかは示されていない。

- 気象条件によって変動があるという説明があったが、資料③で季節ごとの挙動に特徴があるのではないか。
- 季節ごとの変動もあると考えられるが、まだそこまでの解析は出来ておらず、今後の検討課題としたい。

- 資料⑤-3において、アルミニウムと鉄の差（アルミニウムが多いこと）を根拠に津山では黄砂の影響が出ているとの説明であったが、県南の東岡山もアルミニウムが多く、一方で松江はアルミニウムが少ない。この違いは気象の条件（風の吹き方など）の違いが原因か。
- 東岡山もアルミニウムが多いため、黄砂も影響していると考えられるが、松江についてはコンビナートの影響が強く出ていると考えられる。

- 必要測定局数の算定方法は。
- 人口や可住面積に基づき算定する。
- 岡山市内や倉敷市内に設置されている測定局は勘案されないのか。
- 県の必要局数は、両市を除き算定することとされている。

- 可搬型の測定機で性能は十分だと感じるが、可搬型を設置することで常時監視の必要局数に対応できないのか。
- 可搬型は1時間値がとれないこと、テレメーター接続ができないために連続監視ができないことから、あくまで調査研究用の測定機である。

- 今回使用している可搬型の測定機は、PM2.5しか測定できないのか。
- PM2.5しか測定できない。

- 岡山県はPM2.5の濃度が全国的に見ても比較的高いようだが、県民へはどのように周知が図られているのか。
- 国が常時監視結果を取りまとめ、公表しているが、県においても、この結果を報道を通じて周知している。

- 早島局はあまり値が高くないように思うが、予算の兼ね合いも考えると、早島局をなくして、津山と他の地域にもという考え方はできないのか。
- 早島局は全国的にも値は高いほうである。また、岡山県で最初に設置した局であるため、データの連続性という観点からも、今後も継続して測定すべきと考えている。

- 測定局が増えても環境が良くなるわけではないが、数値が高いことについての対策はどこがするのか。
- 数値が高いことの原因の一つには、工場や自動車に関係しているとは思いますが、発生メカニズムは明らかになっていない部分も多いことから、今後効果的な施策の立案や指導を行うため、国や各自治体においてこれらの調査研究を進めているところである。